

令和4年 第1回 大仙市議会定例会

施政方針演説

令和4年2月24日

大仙市長 老松博行

令和4年第1回大仙市議会定例会にあたり、令和4年度の市政運営の基本方針と施策の概要について申し述べます。

1 はじめに

昨年春、市民の皆様の負託を受け、引き続き市政の舵取り役を担わせていただいております。

これから始まる令和4年度が、今年の干支「壬寅（みずのえ とら）」が意味する「陽気を^{はら}孕み、春の胎動を^{たす}助く」のように、市民の皆様にとって、また、大仙市にとって活力に満ちた躍動する年になりますよう、誠心誠意、全力で市政運営に取り組んでまいり所存であります。

今冬の雪につきましては、度重なる寒波の到来により大雪となっており、各地で雪による死傷事故や建物・農業被害が発生しております。亡くなられた方に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。市ではこうした状況を受け、1月31日に雪害警戒対策室を設置し、2月6日に雪害警戒対策部、2月7日に豪雪対策本部を立ち上げ、道路の除排雪の強化や相談体制の拡充、雪下ろし事故の注意喚起、市職員による除雪作業など最大限の対応を行っているところであります。今後も市民の皆様のご生活と地域経済を守るための雪対策に引き続き取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症につきましては、感染力が強いオミクロン

株の発生により、昨年12月以降感染者が爆発的に増加し、現在も31都道府県にまん延防止等重点措置が適用される予断を許さない状況が続いております。

秋田県内におきましても感染が急拡大し、県の独自感染警戒レベルが3に引き上げられたほか、大仙保健所管内でも感染が後を絶たず、一層の対策が必要となっているところであります。

市民の皆様には、基本的な感染防止対策の徹底や、まん延防止等重点措置区域との不要不急の往来自粛をお願いするとともに、感染不安を感じている方には、本市指定PCR検査所の活用をお願いいたします。

また、感染された方やそのご家族が差別や誹謗中傷にさらされることのないよう、重ねてご理解とご協力をお願い申し上げます。

ワクチンの追加接種につきましては、昨年12月から医療従事者を対象にスタートし、1月19日からは高齢者施設等の入所者や従事者を対象に進めております。

また、こうした方々以外の対象者の皆様については、2回目接種の6カ月後から追加接種が可能になったことを受け、1月26日以降、2回目の接種完了順に接種券を発送し、2月1日からインターネットとコールセンターによる予約を受け付けております。

追加接種については、市内3カ所の集団接種会場において本日から、また、個別接種協力病院においては2月26日から開始することとして

おり、5月下旬で概ね完了する見通しとなっております。

5歳から11歳を対象とした接種については、関係機関の協力のもと、3月12日からの接種開始に向け、準備を進めております。

現在の予約状況については、ファイザー社製と武田/モデルナ社製のワクチンのうち、ファイザー社製の予約が多くを占めており、今後の予約に支障をきたす恐れが生じております。感染が急拡大している現状や、交接種の高い安全性と有効性に鑑みますと、ワクチンの早期接種を最優先にすべきと考えており、市ではこれを踏まえ、武田/モデルナ社製の接種を希望する方には接種券が未到着でも予約を受け付ける対応を行っております。これから予約される皆様には早期接種を最優先に考えた申込みについてご理解とご協力をお願いいたします。

今後も、大曲仙北医師会や大曲厚生医療センターをはじめとする関係機関と連携を図りながら、希望するすべての市民の皆様が速やかに接種できるよう取組を進めてまいります。

また、市では、こうした感染防止対策だけでなく、市民生活や経済・産業を守るための対策についても積極的に取組を進めております。

12月の市議会定例会で議決をいただいた経済対策のうち、70歳以上の高齢者世帯などを対象にした「原油価格高騰対策生活支援事業」や、県内で先駆けて実施している「主食用米次期作支援事業」等についても順調に進捗しております。また、飲食店と利用者双方にメリットが

ある支援として実施した「得得飲食チケット事業」については、市内飲食店298店が参加し、多くの皆様から利用をいただいております。

国の支援策として、対象となる子ども1人につき10万円を支給する「子育て世帯への臨時特別給付金支給事業」や、1世帯あたり10万円を支給する「住民税非課税世帯等への臨時特別給付金支給事業」についても、順次給付金の支給を開始しております。

今後も市民の皆様の「いのち」と「健康」を最優先にした感染防止対策に万全を期するとともに、市民生活と地域経済・産業を守るためのさらなる取組の強化に努めてまいります。

2 重点施策について

次に、令和4年度における重点施策について、「第2期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の体系に基づいて申し上げます。

(1) 新時代に向けた農業振興策の強化

はじめに、新時代に向けた農業振興策の強化についてであります。

本市農業の指針となる「第4次大仙市農業振興計画」に基づき、国内屈指の米どころであり、県内トップの大豆産地である強みを活かし、基幹である稲作を核に畑作・園芸の複合経営や6次産業化等を一層推進しながら、持続可能な強いだいせん農業の確立を目指してまいります。

稲作については、効率的・安定的な経営に資する農地の集約・集積化の促進に努めるとともに、一定規模以上の認定農業者に対する機械導入や特色ある米づくりへの支援に加え、「サキホコレ」のブランド確立に向けた取組について県や関係機関と連携して進めてまいります。

また、市独自の取組として進めている大豆の高品質化や収量確保に資する支援、枝豆・花きの生産振興に係る機械導入や施設整備に対する支援などを行い、本市の特色ある作物の産地化を推進してまいります。

（２）地元企業の振興と企業誘致の強化

次に、地元企業の振興と企業誘致の強化についてであります。

商工業をはじめとする産業の振興は、地域経済を活性化させ、雇用と所得をもたらし、若者の定住、結婚・出産につながる本市発展の原動力の一つであります。引き続き各種補助制度や融資制度などの支援策に取り組むほか、アフターコロナを見据えた雇用の維持・創出や人材育成など多岐にわたる振興策を展開してまいります。

新たな企業団地につきましては、分譲を予定している４街区のうち、既に３街区において用地の取得及び工場等の整備に向けた準備を進めております。残りの１街区においても、コロナ禍による立地需要の変化に対応しつつ、首都圏等の企業に対し充実した支援制度や雇用の優位性などをPRしながら企業誘致を進め、早期の引き渡しに努めてまいります。

また、コロナ禍を機に人口・経済活動を地方へ分散させる分散型社会への関心が高まりつつある状況を追い風に、立地を希望する企業の受け皿となる第2期造成に向けた準備を進めてまいりたいと考えております。

(3) 移住定住の促進と若者がチャレンジできる環境づくり

次に、移住定住の促進と若者がチャレンジできる環境づくりについてであります。

移住定住の促進につきましては、コロナ禍を契機とした地元定住や地方移住への関心の高まり、テレワークなどの新たな働き方が広がっているこの機を捉え、取組をさらに強化してまいります。

オンラインを活用した移住相談会や移住体験ツアーを開催し、県内屈指の子育て環境やゆとりある生活環境などの情報発信に努めてまいります。また、「第2期移住・定住促進アクションプラン」が来年度に計画終期を迎えることから、現行プランの効果検証のもと、社会情勢を的確に捉えた新たなプランの策定に取り組んでまいります。

若者がチャレンジできる環境づくりにつきましては、夢や希望に向かってチャレンジする若者や、地域の課題解決のために行動を起こそうとする若者を応援する「若者チャレンジ応援プロジェクト」を新たに立ち上げることであります。若者チャレンジの総合的なサポートとローカルイノベーションの推進を担う「だいせんLabo」の設置や、

クラウドファンディングを活用した助成制度の創設を予定しており、多くの若者がこの地域で暮らし活躍する、活力のあるまちの実現に向けた新たな「エンジン」にしてまいりたいと考えております。

（４）結婚・出産の希望をかなえ子育てしやすい環境づくり

次に、結婚・出産の希望をかなえ子育てしやすい環境づくりについてであります。

出会い・結婚支援につきましては、若者の出会いを創出する取組や、結婚を祝福し新婚夫婦を応援する「結婚祝い金事業」「結婚新生活支援事業」の制度拡充に取り組んでまいります。

出産・子育て支援につきましては、市独自の取組として新たに２歳児の保育料無償化をスタートさせるとともに、出産祝い金などの手厚い支援制度を継続するほか、保育所・放課後児童クラブの充実や子育て世帯の交流の場の提供なども進めてまいります。このうち、保育所の充実については、現在、社会福祉法人大曲保育会による「大曲北保育園」の移転改築や、社会福祉法人タイケン福祉会による「（仮称）ウェルネス保育園大曲」の整備が進められており、子育てしやすい環境づくりの一環として、引き続き、支援と連携を図ってまいります。

また、新たに悩みを抱える子どもの相談体制の構築や、子どもが安心して過ごせる居場所づくりに向けた「子ども食堂」等へのサポートにも

取り組んでまいります。

(5) とともに支え合い誰もが活躍できる地域づくり

次に、ともに支え合い誰もが活躍できる地域づくりについてであります。

人生100年時代と言われる今、SDGsにも掲げるすべての人が健康と福祉を享受できる社会づくりが大変重要となっております。市民の皆様が健やかに暮らせるよう健康寿命の延伸と、安全・安心に暮らせる社会を構築していくための取組を進めてまいります。

健康寿命延伸に向けた取組の柱となる「健幸まちづくりプロジェクト」につきましては、2万人を超える市民参加をいただいております。今後もさらなる「健幸の輪」を広げるため、参加促進キャンペーンや児童生徒向けの動画制作、健康経営に向けた企業への働きかけなどの取組を展開してまいります。また、健康づくりを楽しみながら続けていく仕組みづくりとして、「健幸ポイント事業」の実施や連携協定企業・大学との共同イベントの開催、ウォーキングマップの作成などの取組を進めてまいります。さらには、市内小・中学校への活動量読み取り端末の設置や企業への健幸スポット導入補助など環境の整備にも力を入れてまいります。

また、市民の皆様が住み慣れた地域で安心して生活していくために必要なサービスの提供やいきがづくり活動の促進に取り組むとともに、

高齢者等の見守り強化としてヤマト運輸株式会社との連携による I O T 電球を活用した新たな見守りサービスを導入いたします。

（6）地方創生への挑戦

次に、地方創生への挑戦についてであります。

本市の地方創生の「第一の矢」として位置づける「花火産業構想」につきましては、コロナ禍の影響により多くの計画事業が実施できない状況が続いておりますが、来年度は、構想の中心となる「大曲の花火」の再始動の年にしたいと考えております。4月29日・30日には「大曲の花火 SPRING FESTA」が、また、8月27日には3年ぶりとなる「第94回全国花火競技大会」が開催される予定となっております。また、ウィズコロナに対応したプライベート花火や修学旅行の誘致、旅行商品の造成に向けた取組も進めてまいります。

地方創生の「第二の矢」である「農業と食に関する活性化基本構想」につきましては、農業者の起業意欲向上に資する「農業ビジネス塾」を開講し、農業者の加工商品の開発による経営の多角化などを後押ししてまいります。また、ライスセンター等の共同利用施設の改修支援や、J Aとの連携による良食味米生産の推進、市内酒造業者との連携による地酒の統一ブランドづくりに取り組んでまいります。さらには、農業のデジタルトランスフォーメーションとしてスマート農業も推進してまい

ります。秋田県等との連携による「秋田版スマート農業モデル創出事業」として、直播や除草剤散布等の作業工程にドローンを活用する実証を行うこととしており、早期の実装を目指してまいります。

また、地方創生の「第三の矢」となる新たな活性化構想「大仙市文化財保存活用地域計画」の策定にも取り組んでまいります。本市が誇る文化財や史跡・名勝などの保存・活用を総合的かつ計画的に行い、まちづくりや観光分野などと有機的に結び付けることで、文化観光都市としての魅力の創出と地域の活性化を目指してまいります。

こうした地方創生の取組に加え、その動きを加速化させるための新たな連携体制の構築として、秋田県立大学との連携協力協定を締結することとしております。今次定例会会期中に締結式を執り行うこととしており、今後、地域社会の持続的発展や産業の振興に寄与する連携事業に順次取り組んでまいります。

3 令和4年度当初予算（案）の概要について

次に、令和4年度当初予算（案）の概要について申し上げます。

新年度当初予算（案）につきましては、目下最大の課題であるコロナ対策を最優先に、引き続き感染防止対策の強化と地域経済の回復に資する取組に重点を置いた予算配分としたほか、人口減少の抑制や地方創生の実現への取組に加え、新たな潮流への対応としてコロナ禍を契機に

加速するデジタル変革やグリーン社会の実現に向けた取組など、市勢発展に欠かすことのできない事業に対し、優先的に配分しております。

一般会計につきましては、前年度に比べ11億8,320万円、率にして2.8%増の432億120万円を計上しております。

重点施策への予算配分については、「地方創生へのチャレンジ」に36億3,200万円、「企業誘致の強化と地元企業の振興」に2億3,700万円、「新時代に向けた農業振興策の強化」に17億8,000万円、「地域全体の元気づくり」に14億4,500万円、「市民生活を守る安全・安心なまちづくり」に39億1,900万円、「成長戦略の推進」に3億4,900万円を計上し、合計113億6,200万円、全体予算の26.3%を占めております。

この他の会計につきましては、国民健康保険事業特別会計をはじめとする14の特別会計で予算総額111億7,965万5千円、4つの企業会計で予算総額が99億930万5千円となっております。

また、予算編成にあたっては、一般財源の不足を補うため財政調整基金の取り崩しを行っておりますが、令和3年度の決算見込み等を勘案し、一定の基金残高を確保できるよう積み増しを図ることとしております。

今後も厳しい財政運営が予測されますが、限られた財源の中でより一層の選択と集中を進めるため、既成概念にとらわれない事業の見直しを進めるとともに、公共施設等総合管理計画に基づく施設の統廃合など

の取組についても推進し、将来の大仙市を見据えた健全な財政運営に努めてまいります。

4 令和4年度の主な施策の概要について

次に、令和4年度の主な施策の概要について、総合計画の体系に基づいて申し上げます。

(1) 魅力のある産業のまちを創ります

はじめに、産業振興・雇用などについてであります。

(農林水産業の振興)

6次産業化の推進につきましては、事業化を目指す農業者等に対し、機械導入・施設整備への支援や、原料作物の生産支援に取り組んでまいります。また、食品衛生法の改正に伴い、漬物製造において営業許可の手続きが必要となることから、現在進めている関係者等への調査結果をもとに、県と連携を図りながら必要な対策を講じてまいります。

畜産部門につきましては、「大仙市畜産振興プラン」に基づき、繁殖牛の増頭に係る支援を行うほか、環境対策の施設整備等に対し、県の支援制度に加えて市の独自支援も行い、活力ある畜産業の推進に取り組んでまいります。

担い手の確保育成対策につきましては、東部・西部新規就農者研修

施設での若手就農者の育成や就農定着に向けたフォローアップのほか、県や関係機関との連携のもと、法人化による経営基盤の安定化や後継者の確保育成など、生産者の実情に即した支援を実施してまいります。

本市では初の開催となる「第145回秋田県種苗交換会」につきましては、主催者である秋田県農業協同組合中央会や秋田おぼこ農業協同組合、商工団体等と連携を図りながら、協賛会の設置や独自イベント等の準備を進め、開催に向けて万全を期してまいります。

農業生産基盤の整備につきましては、新たに採択される協和地域の「西台地区」、太田地域の「新興地区」を含めた市内15地区で実施される県営ほ場整備事業の推進を図ってまいります。

林業振興につきましては、「大仙市豊かな森づくり振興プラン」に基づき、木材の利用促進や担い手の育成支援に取り組むとともに、新たに森林再生支援としてナラ枯れ被害の拡大防止に資する取組を進めるなど、森林の魅力向上と林業・木材産業の発展につなげてまいります。

(商工業の振興)

商工業の振興につきましては、商工団体と連携した経営支援や創業支援などを実施するとともに、中心市街地等の賑わい創出に資する取組や商店街の環境整備への支援を行うなど、地域経済の活性化につながる取組を進めてまいります。

雇用・就業支援につきましては、深刻な人手不足を解消し、市内産業

の振興を図るため、雇用助成金事業や資格取得応援事業などに取り組み、地元企業における雇用促進と人材の育成・確保を図ってまいります。

(観光の振興)

観光振興につきましては、「第3次大仙市観光振興計画」のもと、「自然」「農・食」「文化」「スポーツ」に「大曲の花火」のブランド力を最大限に活用した各種施策を展開するとともに、真木真昼県立自然公園の雄大な「自然」をベースにした新たな観光ビジョンを策定し、観光誘客と観光消費の増加につなげてまいります。さらに、JR大曲駅に併設する大仙市観光情報センターふれあい広場の改修やインフォメーションホール等を活用した観光情報の発信強化を進め、利用者の利便性向上と観光交流拠点としての機能強化を図ってまいります。

中里温泉の改築につきましては、健康増進の拠点・持続可能な経営の実現・新たな顧客の創出の3つの整備方針に基づき、基本設計及び実施設計を行い、令和6年度のリニューアルオープンを目指して準備を進めてまいります。

(2) みんなの元気を応援します

次に、子育て、健康・福祉などについてであります。

(保健・医療の充実)

保健・医療につきましては、がん検診の受診率向上を図るため、

WEB予約システムの導入や日曜検診等の再開に取り組み、誰もが受診しやすい体制づくりに努めてまいります。また、検診検査内容の充実の一環として3歳児健診時にこれまでの視力検査に加え、新たな検査機器を導入し、視機能異常の早期発見・早期治療に努めてまいります。

(社会福祉の充実)

社会福祉の充実につきましては、いわゆるヤングケアラーへの対応が全国的な課題になっていることを受け、その実態把握に努めるとともに、日常生活に悩みを抱えている子どもが相談しやすい体制を整えるなど、困難を抱える子どもの把握と必要な支援を講じてまいります。

また、介護や障害、生活困窮などの問題が複雑化・複合化し、従来の支援体制では対応が難しいケースが生じていることを踏まえ、分野横断的な包括支援を行う「重層的支援体制」の構築を目指すほか、生活困窮家庭等の子どもの学習支援と保護者の相談支援を実施してまいります。

(高齢者福祉の充実)

高齢者福祉の充実につきましては、重度の要介護者を在宅で介護している低所得世帯を対象とする支援制度を創設し、家族介護支援の充実に取り組むとともに、医療介護の連携強化や認知症対策の充実に努めるなど、「地域包括ケアシステム」のさらなる深化を図ってまいります。

(スポーツの推進)

スポーツの推進につきましては、スポーツによる地方創生の拠点整備

として、令和5年7月の供用開始を目指して仙北地域の多目的人工芝グラウンドの整備に引き続き取り組むとともに、仙北健康広場テニスコートの改修・増設整備も進めてまいります。また、「大仙市スポーツツーリズム コミッション」を中心に、企業や各種団体の皆様と連携を図りながら、スポーツイベントやスポーツ合宿等の取組を進め、交流人口の拡大と地域の活性化につなげてまいります。

(3) 住みよいまちを築きます

次に、安全・安心、都市整備などについてであります。

(自然環境の保全)

地球温暖化防止対策につきましては、「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、本市の取組姿勢と決意を表明するため、今次定例会最終日に「ゼロカーボンシティ宣言」を行うこととしております。

「二酸化炭素排出量の削減」と「再生可能エネルギーの最大限の導入」を軸に必要な施策を展開するとともに、再生可能エネルギーの適地調査や導入目標などを盛り込んだ「大仙市地球温暖化対策実行計画」を策定し、持続可能な脱炭素社会の実現に全市一体となって取り組んでまいります。また、当該計画の策定に先駆けて、市公用車への次世代自動車の導入をはじめ、道路照明灯や仙北ふれあい文化センターイベントホール照明のLED化に取り組んでまいります。

(安全・安心体制の充実)

防災対策につきましては、大雨の浸水対策として水田に雨水を一時的に貯留する「田んぼダム」の促進に引き続き取り組むほか、昨年7月に配備した大型排水ポンプ車を活用し、国・県と連携を図りながら排水体制の強化に努めてまいります。

消防団員の確保につきましては、費用弁償の引き上げにより団員の処遇改善を行うとともに、OB団員の再入団制度の導入や担い手育成のための少年消防クラブの結成、消防団音楽隊の活動促進などに取り組み、団員の士気高揚と消防団活動の活性化につなげてまいります。

(空き家対策)

空き家対策につきましては、空き家の発生抑制や利活用、適正管理、解体の各段階に応じて総合的に支援を行う市の空き家対策事業のさらなる周知を図るとともに、「第2次大仙市空き家等対策計画」に基づき、今年度において拡充した空き家解体補助金の利用を促し、危険空き家の解体と跡地の利活用を促進してまいります。

(環境衛生の整備)

一般廃棄物最終処分場につきましては、大曲処分場並びに中仙処分場の廃止手続きが今年度で終了したことから、来年度は、北檜岡地区不燃物処理場の廃止手続きを進めることとし、地下水等の水質検査や火災発生の防止措置などの基準適合に向けた準備を進めてまいります。

(地域情報化の推進)

デジタルトランスフォーメーションの推進につきましては、「大仙市DX推進ビジョン」のもと、マイナンバーカードを利用したコンビニエンスストア等での証明書自動交付サービスの導入をはじめ、市窓口へのキャッシュレス決済端末の設置やオンライン申請システムの導入などに取り組み、市民サービスの向上に努めてまいります。また、市の全業務を対象に実施した業務量調査の結果に基づき、業務改善や窓口改革などを進めるとともに、公文書管理における電子決裁を導入し、行政事務の合理化と効率化に努めてまいります。

(道路・河川等の整備)

道路及び橋りょうの整備につきましては、計画的な道路改良や舗装補修等を行い、交通インフラの維持・強化を図るとともに、「大仙市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、健全な橋りょうの維持管理に努めてまいります。

雄物川中流部の水害対策につきましては、無堤防区間がある南外物渡台地区において、浸水被害から住民を守るための集団移転を計画しており、国の事業を活用した住宅団地整備に取り組むこととしております。

国道13号大曲・秋田間の整備、雄物川の河川改修の促進につきましては、関係自治体等と連携を図りながら、早期実現に向けて引き続き要望活動を実施してまいります。また、国道105号本荘・大曲間につ

いては、急勾配・急カーブ区間が点在し、安全で円滑な交通に支障を来していることから、関係自治体と地域高規格道路本荘大曲道路の整備促進に関する期成同盟会を立ち上げ、その解消に向けた要望活動を展開してまいりたいと考えております。

（上下水道の整備）

上水道事業につきましては、引き続き老朽化した配水管の計画的な改良工事を進めるとともに、老朽化した橋りょう添架管と水管橋の長寿命化対策も進めてまいります。

簡易水道事業につきましては、大曲地域松倉地区、内小友中山地区の水道未普及地域の解消を図るため、引き続き配水管拡張工事を進めるとともに、経年劣化に伴う協和南部地区の配水管についても、年度内の完了を目指し、布設替え工事等を進めてまいります。

下水道事業につきましては、市内全域の公共下水道の整備が完了しておりますが、引き続き、長寿命化対策として大曲地域の佐野町、若竹町、及び朝日町の管渠改築工事を実施してまいります。

また、人口減少や施設の老朽化に対応するため、神岡東部地区の農業集落排水を流域下水道に接続する工事を進めるとともに、西仙北地域川里地区の農業集落排水処理施設の改築更新工事を進めてまいります。

（住環境の整備）

住環境の整備につきましては、木造住宅の耐震診断や耐震改修に要す

る費用への助成を引き続き行うほか、子育て世帯への支援を重視した「住宅リフォーム支援事業」も継続実施し、更なる居住環境の向上に努めてまいります。

(公園の整備)

公園の整備につきましては、8地域にある主な公園を「地域拠点公園」に位置付け、地域住民や子育て世代のニーズを捉えながら計画的な整備に取り組んでまいります。このうち「基幹公園」として中央・東部・西部の3つの公園を優先的に整備することとしており、多くの皆様から活用され、子どもたちの笑顔があふれる公園づくりを進めてまいります。

(4) 豊かな心と創造力を育みます

次に、教育、生涯学習、芸術・文化などについてであります。

(学校教育の充実)

教育内容の充実につきましては、GIGAスクール構想の実現に向け、児童生徒に配付したタブレット端末のさらなる活用を図るため、教育現場への支援員配置や自宅等での利用を常時可能にするなど、サポート体制の充実とICT環境の整備に取り組んでまいります。

学校給食事業につきましては、施設・設備の老朽化や児童生徒の減少に対応するため、中仙及び太田学校給食センターの統合を計画しております。新たな給食センターは、現在の中仙学校給食センターに設置する

予定としており、令和5年度の稼働を目指して準備を進めてまいります。

（生涯学習の推進）

生涯学習の推進につきましては、新たな取組として「地域づくりアカデミー」を開講いたします。各界で活躍し、卓越した知見を有する講師を招き、地域づくりの推進や地域文化の創造に資する機会の創出に努めてまいります。

生涯学習施設の整備につきましては、太田文化プラザの機能強化を図るため、多目的ホールや玄関ホールの改修を進めてまいります。

（芸術・文化の振興）

文化財の保護・活用につきましては、「国指定史跡 払田柵跡」の外柵南門の再整備や「国指定名勝 旧池田氏庭園」の修復を引き続き実施し、貴重な文化財の復原・保存と文化観光資源としての活用推進に取り組んでまいります。

（地域間交流・国際交流の推進）

地域間交流につきましては、有縁交流都市である宮崎県宮崎市、友好交流都市である神奈川県座間市及び岩手県宮古市の3市との間で、教育やスポーツ、文化、経済等の様々な分野の持続的な交流事業を推進し、相互理解と相互発展につなげてまいります。

国際交流につきましては、友好交流都市である韓国唐津市との青少年交流や、台湾新北市中和区との友好関係構築に向けた交流などを進めて

まいります。

(5) 時代に合った地域を創ります

次に、地域社会の維持・活性化等についてであります。

(市民との協働)

市民との協働のまちづくりにつきましては、これまで実施してきた「地域の魅力再発見事業」の発展形として、新たに「彩色千輪プロジェクト事業」に取り組んでまいります。地域の拠点となる施設を起点に、市民の皆様との協働で地域の課題解決や活性化に取り組み、色とりどりの花火があわさり夜空全体に広がるように、8地域それぞれの活性化と、その波及による大仙市全体の活性化に結びつけたいと考えております。

(男女共同参画の推進)

男女共同参画の推進につきましては、SDGsのひとつであるジェンダーの平等も踏まえつつ、「第3次大仙市男女共同参画プラン」に基づき、女性の活躍推進に向けたセミナーの開催や、男性の家事・育児への参加に対する意識の醸成、多様性の理解に向けた取組を進めるなど、すべての人が活躍できる包摂性のある社会の形成に努めてまいります。

(SDGsの推進)

SDGsの推進につきましては、「大仙市SDGs推進方針」に基づき、これまで推進してきた取組をさらに前へ進めるため、現在、

国の「SDGs 未来都市」の選定に向けた提案準備を進めております。市民の皆様をはじめ市内外の企業や各種団体の皆様と連携しながら、SDGs の理念を原動力に、経済・社会・環境分野において課題の解消と新たな価値の創出に取り組み、人口減少社会にあっても市民の皆様が未来に希望を持って安心して暮らせる、誰一人取り残さない持続可能なまちの実現につなげてまいりたいと考えております。

5 むすびに

結びに、今年の展望と決意について申し上げます。

「未来は、今、我々が何をするかにかかっている」――。

インド独立の父とされる、マハトマ・ガンジーの言葉であります。

私たちは今、長引くコロナ禍により不安を抱え、閉塞感を払拭できずに日々を過ごしております。しかしながら、そのような時だからこそ、この言葉が示唆するように、未来は我々が創るという気概を持って前に歩を進めなければならないものと思っております。

また、社会や価値観に変革をもたらすパラダイムシフトが進行する今、過去からの延長ではなく、一步先の未来から俯瞰して、今何を成すべきかを考え、チャレンジしていくことが重要であり、私たちの「選択」と「行動」が未来を創造する鍵になるものと考えております。

皆様と手を携えながら、必ずや現下の難局を乗り越えるとともに、

その先にある大仙市の明るい未来をともに創っていくという強い決意のもと、引き続き、「市民の皆様の幸せ」と「大仙市全体のさらなる発展」に向けて「だいせん創生」に全力で取り組んでまいり所存であります。

以上、令和4年度における市政運営の基本方針と施策の概要について申し上げました。市民の皆様並びに議員各位からのより一層のご支援とご協力をお願い申し上げまして、令和4年度の施政方針といたします。

別添

令和4年第1回大仙市議会定例会

市政報告（諸般の報告）

令和4年2月24日

大 仙 市

目 次

【総務部】

- 1 雪下ろし技能講習会について 1
- 2 第8回大仙市シェイクアウト訓練について 1

【健康福祉部】

- 3 大仙市PCR検査所について 1

【農林部】

- 4 大仙農業元気賞について 1
- 5 市内5蔵元による地酒統一ブランドについて 1
- 6 アンモニア燃料を使った園芸作物の周年栽培について 2
- 7 鮭資源確保活用事業について 2

【経済産業部】

- 8 令和4年3月高校卒業予定者の就職状況について 2

【観光文化スポーツ部】

- 9 市内の小正月行事等について 2
- 10 JR大曲駅東西自由通路への「高校生ベンチ」の設置について ... 2
- 11 秋田新幹線こまち開業25周年記念イベントについて 3
- 12 市所有温泉施設へのバイオマスボイラーの導入について 3

【建設部】

- 13 雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業（国）について 3
- 14 災害復旧関連事業等（県）について 3
- 15 市営住宅の長寿命化について 3
- 16 公園の整備について 3

【教育委員会事務局】

- 17 「大仙ふるさと博士育成」事業について 4
- 18 教育施設の改修工事等について 4

【上下水道局】

- 19 上水道事業について 4

20	簡易水道事業について	4
21	下水道事業について	4

【新型コロナウイルス経済対策】

22	経済対策	4月臨時会	5
23	経済対策	6月定例会	7
24	経済対策	7月臨時会	7
25	経済対策	9月定例会	8
26	経済対策	12月定例会	8

【総務部】

1 雪下ろし技能講習会について

昨年12月15日、屋根の雪下ろしに関する正しい知識と技能を修得し事故を未然に防止するため、大曲交流センターと県仙北地域振興局を会場に開催し、一般市民や関係者など約100人が参加しています。講習会では、大仙警察署による雪下ろし事故に関する「座学講習」や、大曲消防署による安全な雪下ろし作業の「実技講習」が行われています。

2 第8回大仙市シェイクアウト訓練について

友好交流都市であり災害時相互応援協定を結んでいる神奈川県座間市との連携により、1月23日に学校や企業等の協力のもと、市内各地で行われ、約36,500人の皆さんが地震の際に命を守るための一斉防災行動訓練に参加しています。

また、プラスワン訓練では、125団体7,154人が参加し、「コロナ禍での避難」をテーマに、感染予防対策を意識した実践的な取組が行われています。

【健康福祉部】

3 大仙市PCR検査所について

誰でも気軽に検査ができる店舗来所型検査所として、昨年11月30日に大曲武道館内の多目的室に設置しています。12月25日には、県が実施する「秋田県PCR等検査無料化事業」の検査実施拠点に登録され、2月19日現在、延べ2,369件の方から利用をいただいています。

【農林部】

4 大仙農業元気賞について

3月25日に開催を予定している大仙市農業研修会において、中仙、協和、太田の各地域で活躍する若手農業者3名を表彰いたします。これまで受賞された44名と同様、地域農業をけん引する若きリーダーとして更なる活躍を期待しています。

5 市内5蔵元による地酒統一ブランドについて

市内農業者や酒蔵、秋田大学の協力のもと、大仙市産米を使った日本酒「宵の星々」が完成し、3月5日、6日の両日、道の駅なかせん

を会場に、蔵出しイベントの開催を予定しています。

6 アンモニア燃料を使った園芸作物の周年栽培について

脱炭素社会の実現を目指し、南外地域の農業法人や株式会社トヨタエナジーソリューションズ等による共同の取組として、アンモニアを燃料とする発電用タービンを活用し、発生する電気と付加熱を施設園芸作物の周年栽培に利用する実証事業が2月から開始されています。

7 鮭資源確保活用事業について

全国的な鮭の周遊数の減少に加え、遡上のピークとなる12月上旬の河川水量が例年と比べて多かったこともあり、親魚の捕獲尾数は昨年の約4割程度の2,450尾に留まっています。また、採卵数については、昨年の半分程度の120万粒を確保しており、少しでも多くの稚魚を放流できるよう取り組んでいきます。

【経済産業部】

8 令和4年3月高校卒業予定者の就職状況について

ハローワーク大曲によると、昨年12月末時点の管内における求人数は549人で、就職希望者は242人、この内226人が内定しており、率にすると93.4%と、県平均92.9%を0.5ポイント上回りました。

【観光文化スポーツ部】

9 市内の小正月行事等について

大仙の冬を彩る小正月行事や冬まつりは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止又は一部内容を変更して開催されています。

【開催】 (中 仙) 八坂神社ぼんでん / 1月16日
(太 田) 太田の火まつり / 2月 5日
(中 仙) 押切の火振りかまくら / 2月14日
(大 曲) 鳥子舞・大曲の綱引き / 2月19日

【中止】 (仙 北) 払田柵の冬まつり
(西仙北) 刈和野の大綱引き
(大 曲) 川を渡るぼんでん

10 JR大曲駅東西自由通路への「高校生ベンチ」の設置について

昨年度に引き続き、大曲工業高等学校土木建築科の生徒の皆さんが

製作した大仙市産秋田杉を使ったベンチ4基をJR大曲駅東西自由通路に設置しました。これまで設置したベンチとあわせて9基設置しており、多くの皆さんに利用されています。

11 秋田新幹線こまち開業25周年記念イベントについて

3月19日、JR東日本秋田支社の主催により、秋田新幹線こまちが停車する県内各駅において、秋田新幹線の利用者等を対象に記念品の配布や手振り旗を使用した出迎えなどが行われます。本市においても記念イベントの成功に向け協力を行うとともに、今後も沿線自治体等と連携を図りながら、秋田新幹線の利用促進に努めたいと考えています。

12 市所有温泉施設へのバイオマスボイラーの導入について

もみ殻を燃料としたバイオマスボイラーを西仙北ぬく森温泉ユメリアに導入し、2月22日から稼働しています。これにより、二酸化炭素排出量の抑制と給湯に係るランニングコストの削減ができ、また、災害時には、発電機を使用してバイオマスボイラーを稼働させることで入浴が可能になるなど、様々な導入メリットが期待されています。

【建設部】

13 雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業（国）について

1月末現在の進捗率は、用地調査業務100%、用地補償業務97%、築堤工事や堤防のかさ上げ等の工事88%と伺っています。

14 災害復旧関連事業等（県）について

1月末現在、災害復旧関連工事の進捗率は、淀川、土買川、檜岡川ともに99%と伺っています。

15 市営住宅の長寿命化について

「第2期大仙市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、予防保全的な維持管理や長寿命化に向けた有効な改善策を今後も計画的に進めていきます。

16 公園の整備について

供用開始後30年を超える公園が約半数を占め、施設の老朽化が懸念されることから、現在、「大仙市公園施設長寿命化計画」の策定を

進めています。今後、この計画のもと、予防保全型の施設改修を積極的に進め、公園の適正な維持管理に取り組んでいきます。

【教育委員会事務局】

17 「大仙ふるさと博士育成」事業について

地域の活性化に寄与できる子どもを育成する取組として、夏季・冬季の休業中に、児童生徒延べ91人が参加し、「ふるさと農業体験DAY」を実施しています。

また、1月21日現在で、名誉博士126人、上級728人、中級2,818人、初級3,565人が大仙市ふるさと博士の認定を受けています。

18 教育施設の改修工事等について

昨年12月23日に太田文化プラザの空調設備改修工事、2月15日に中仙中学校の施設改修工事、2月7日に刈和野大綱展示場新築工事がそれぞれ完了しています。

【上下水道局】

19 上水道事業について

大曲西根地区で整備を進めていた企業団地への配水管布設工事については、昨年12月17日に工事が完成しています。

また、藤木下橋及び館の橋の上水道添架管修繕工事の実施設計業務委託については、3月上旬の完成に向け順調に進捗しています。

20 簡易水道事業について

水道未復旧地域解消事業については、大曲地域松倉地区の配水管拡張工事が1月21日に完成し、大川原集落から松倉集落までの給水を開始しています。

また、内小友中山地区についても、今年度分の工事が1月21日に完成しています。

21 下水道事業について

大曲西根地区の企業団地への管渠布設工事及び協和地域の雄物川改修に伴う下水道管布設替え工事については、3月中旬の完成に向け順調に進捗しています。

【新型コロナウイルス経済対策】

22 経済対策 4月臨時会

(1) 大仙こすもすプロジェクト

新型コロナウイルス感染症の影響で経済的に困窮し、必要な生理用品の確保が困難となっている方に対し、緊急的な支援として生理用品を無償配布するもので、1月末時点で延べ147人に402パックを配布しています。また、7月1日からはさらなる支援として生理用品の配布とあわせた生活相談窓口の案内チラシも同封する試みを行っています。

(2) マイナンバーカード普及促進事業

マイナンバーカードの普及と地域消費の拡大に資する取組として、昨年12月28日までにカードを取得した市民に対し、3千円の地域商品券を給付するもので、12,795人の方に地域商品券を給付しています。これにより事業終了となる12月末時点の同カードの申請率は、49.4%まで上昇し、県内市町村の中でもトップレベルとなっています。

(3) 生活応援事業

感染予防対策への負担が大きい住民税非課税世帯及び一部児童手当受給世帯に対し、対象者一人あたり1万円の地域商品券を給付するもので、18,710人分の地域商品券を11,966世帯に支給しています。利用期限となる1月31日時点の利用実績は、支給総額の98.5%にあたる184,332千円となっています。

(4) 高齢者支援地域商品券給付事業

75歳以上の高齢者に対し、一人あたり3千円分の地域商品券を支給するもので、16,801人に地域商品券を送っています。利用期限となる1月31日時点の利用実績は、支給総額の89.8%にあたる45,298千円となっています。

(5) 子育て世帯生活支援特別給付金支援事業（ひとり親世帯）

児童扶養手当受給世帯等に対し、児童一人あたり5万円を支給するもので、1月末日時点で対象となる児童960人分の給付金を支給しています。

(6) 健幸まちづくり推進事業

健幸まちづくりプロジェクトの参加者に対し、地域商品券1千円分を給付するもので、11月末時点で7,375人に給付し、事業は終了しています。

(7) 地方創生テレワーク推進事業

コロナ禍を契機に新しい働き方としてテレワークが普及し、地方移住への関心が高まっていることを踏まえ、既存民間施設の活用による地方創生テレワーク施設の開設・運営を支援するとともに、企業へのプロモーション等を推進するもので、市内の民間事業者1社を支援しています。このテレワーク施設は、3月中旬の開設に向けて準備が進められています。

(8) 経営維持特別小口融資関連事業（マル仙再興支援枠）

融資限度額300万円、融資期間10年以内とする特別枠を設け、利子及び保証料の全額を補給するもので、1月31日時点で80件の融資を実行しています。

(9) 経営再興支援事業

令和2年度実施の経営維持臨時給付金を受給した事業所のうち、卸・小売業、生活関連サービス業、宿泊業、飲食サービス業等を営む事業所に対し、20万円を給付するもので、4月26日から6月30日まで申請を受け付け、申請件数が279件、給付額が59,400千円となっています。

(10) 飲食店等感染予防対策支援事業

感染予防対策に取り組む市内の飲食店や宿泊業等の事業所に対し、10万円を上限に対象となる経費を支援するもので、4月26日から6月30日まで申請を受け付け、申請件数が267件、給付額が24,788,305円となっています。

(11) 体験型修学旅行誘致事業

修学旅行の誘致に向け、県内の小中学校・高等学校を対象に、「花火」をテーマにした修学旅行向けの体験プログラムを提供するもので、9月16日から11月17日にかけて修学旅行5校の受入を行っています。

23 経済対策 6月定例会

(1) 子育て世帯生活支援特別給付金支援事業（ひとり親世帯以外）

住民税非課税世帯または同等の水準にあると認められる世帯に対し、児童一人あたり5万円を給付するもので、1月末日時点で対象となる児童469人分の給付金を支給しています。

(2) 観光・物産デジタルPR推進事業

昨年11月から、テレビ地上波放送やWEBサイト、デザイン段ボールなどを活用した観光・特産品のPRを展開し、多くの方々から視聴・再生をいただいています。その波及効果もあり、市観光物産協会の公式ネットショップの12月売上高が前年同月と比べ161%と大幅に増加しています。今後も引き続き同協会と連携を図り、コロナ禍における新たな日常に対応した観光PR及び市特産品の需要喚起に取り組んでいます。

24 経済対策 7月臨時会

(1) 生活困窮者自立支援金給付事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、生活に困窮している方で、緊急小口資金等の特例貸付を利用できない方を対象に、単身世帯6万円、2人世帯8万円、3人以上世帯10万円を3カ月間給付するもので、2月10日時点の申請件数及び給付済額は、8件132万円となっています。

(2) 消費拡大商品券交付事業

市内の消費拡大を図るため、全市民に対し3千円分の地域商品券を給付するもので、1月31日までに引き換え及び使用が終了し、28,707世帯に商品券を交付しました。また、既に交付した商品券のうち、事業者による換金額は1月31日時点で217,353千円となっています。

(3) テナント事業者支援給付金事業

4月から6月までのいずれか1カ月の売上高が、前年または前々年同月比で20%以上減少したテナント事業者に対し、1事業所あたり20万円を上限に給付するもので、9月30日まで申請の受付を行い、申請件数が253件、給付額が3,123万円となっています。

(4) 経営維持臨時給付金事業

4月から6月までのいずれかの月の売上高が、前年または前々年同月比で20%以上減少した事業者に対し、1事業所あたり20万円を給付するもので、9月30日まで申請の受付を行い、申請件数が947件、給付額が1億9,420万円となっています。

(5) コンベンション施設運営支援事業

大規模なイベント開催用の複合施設を運営する事業所に対し、大規模会議場の面積に応じて支援するもので、申請件数が5件、給付決定額が44,786,600円となっています。

25 経済対策 9月定例会

(1) 全国へ届け大仙の味 特産品発送事業について

本市の特産品の販売促進と地域経済の活性化を目指し、特産品の送料助成を行うもので、2月16日現在の利用件数が35事業所6,163件、給付額が5,782千円となっています。

26 経済対策 12月定例会

(1) 観光交通事業者支援事業費について

市内の貸切観光バス、タクシー及び自動車運転代行事業者に対して支援するもので、昨年12月28日までに29件の申請を受け付け、10,734千円を支給しています。

(2) 大仙市学生支援事業について

保護者の元を離れ県内外の大学等で学ぶ学生に5万円を給付するもので、昨年12月1日から1月14日までの間に申込みを受け付け、1,017人に対し給付金を支給しています。

(3) 修学旅行キャンセル料支援事業について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、市内小中学校で計画されていた修学旅行の中止、延期等に伴い発生する旅行代金のキャンセル料を補助するもので、市内小・中学校6校の児童生徒379人の保護者に対し、2月25日までに補助金が支給できるよう準備を進めています。

(4) 得得飲食チケット事業について

市内飲食店を支援するため、市内飲食店の利用者に対し、会計千円につき、次回以降、市内飲食店で利用できる千円の飲食チケットを配布するもので、1月31日までに配布及び使用が終了し、飲食店へのチケットの配布額が99,200千円、飲食店による換金額が2月15日時点で82,544千円となっています。

(5) 宴会場施設運営支援事業について

大人数での利用が可能な宴会場を所有する事業所に対し、年間売上と売上減少率に応じて支援するもので、12月28日まで申請の受付を行い、申請件数が15件、給付決定額が14,000千円となっています。

(6) 主食用米次期作支援事業について

令和3年産米価の大幅な下落を踏まえ、引き続き次期作に取り組む農業経営体に対し支援金を給付するもので、申請期限の1月末まで3,134人の申請を受け付け、支給金額が272,706千円となっています。

(7) 原油価格高騰対策生活支援事業について

原油価格高騰に伴うガソリンや灯油の著しい高騰を受け、70歳以上の高齢者世帯等に対し1世帯あたり6千円を支給するもので、申請受付期限となる1月31日時点で、申請世帯数が4,259世帯、支給額が25,554千円となっています。

(8) 非課税世帯等への臨時特別給付金支給事業について

令和3年度住民税均等割非課税世帯等に対し一世帯あたり10万円を支給するもので、1月31日に対象となる8,439世帯に確認書を送付し、確認書を返送いただいた世帯から順次給付金を支給しています。

(9) 子育て世帯への臨時特別給付金支給事業について

18歳以下の児童を養育している子育て世帯に対し児童一人あたり10万円を支給するもので、1月末日時点で対象となる児童9,355人分の給付金を支給しています。